

琉球列島のなりたち

琉球列島は、氷河期と間氷期が繰り返される中で、アジア大陸とつながったり離れたりしながら形成された諸島です。その独特な地質学的歴史の結果として、琉球列島で見られる植物の多くはアジア大陸を起源としながらも、海で大陸と隔てられた長い期間の中で独自の発展を遂げ、特有の植物相が形成されました。琉球列島に生える維管束植物の数はシダを含めて約 1600 種にのぼります。この小さな南の島々には、日本本土に比べると平均で 1 km² あたり 40～50 倍もの品種が自生しています。

絶滅の危機

海によって遠く隔たれたこの小さな島々では、各品種の生息地も個体数も限られているため、諸島の植物多様性は現地の生態系の乱れによる悪影響を非常に受けやすくなっています。人間の手による開発が引き起こす生息地の乱れ、収集家による採取、特定外来生物との生存競争などの理由により、琉球列島で確認されている維管束植物のうち、約 700 種が絶滅したか絶滅の恐れのある植物に指定されています。